

Economic Indicators

発表日: 2023年5月18日(木)

貿易統計(2023年4月)

～原油価格の落ち着きで貿易赤字が縮小～

第一生命経済研究所 経済調査部

副主任エコノミスト 大柴 千智 (TEL: 03-5221-4525)

		貿易収支(億円)				輸出数量			輸入数量				
		輸出金額		輸入金額		前年比	アメリカ	EU	アジア	前年比	アメリカ	EU	アジア
		前年比	前年比	前年比	前年比								
		原数値	季調値	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	
22年	1月	▲ 22,201	▲ 8,756	9.5	39.0	▲ 4.6	▲ 1.1	9.7	▲ 10.5	4.7	4.6	20.9	3.8
	2月	▲ 7,115	▲ 10,204	19.1	34.6	2.8	5.0	2.0	6.1	▲ 0.8	6.0	13.0	▲ 5.4
	3月	▲ 4,649	▲ 9,843	14.7	31.9	▲ 1.4	11.7	7.6	▲ 7.2	0.0	▲ 2.0	2.9	▲ 0.3
	4月	▲ 8,549	▲ 14,718	12.5	28.3	▲ 4.5	7.9	6.8	▲ 8.2	▲ 8.9	▲ 10.2	5.2	▲ 15.5
	5月	▲ 23,661	▲ 18,007	15.8	48.5	▲ 3.5	▲ 1.1	▲ 2.0	▲ 4.2	4.6	▲ 1.7	6.3	3.1
	6月	▲ 13,750	▲ 19,052	19.2	45.6	▲ 1.6	▲ 1.7	6.7	▲ 2.5	1.3	▲ 1.8	▲ 6.7	2.0
	7月	▲ 14,219	▲ 21,137	19.0	46.9	▲ 2.0	▲ 5.6	17.3	▲ 2.2	2.2	17.5	▲ 4.2	2.2
	8月	▲ 27,904	▲ 22,785	22.0	49.3	▲ 1.1	10.4	▲ 1.5	▲ 3.9	2.7	4.0	▲ 8.4	4.1
	9月	▲ 20,992	▲ 20,049	28.9	45.8	3.8	18.2	11.2	▲ 2.5	▲ 1.6	1.8	5.8	▲ 0.1
	10月	▲ 21,715	▲ 23,879	25.3	53.6	▲ 0.3	4.7	9.3	▲ 6.1	5.6	4.9	22.8	6.0
	11月	▲ 20,319	▲ 18,401	20.0	30.3	▲ 3.6	1.0	9.0	▲ 8.3	▲ 4.6	▲ 7.7	3.2	▲ 4.7
	12月	▲ 14,586	▲ 17,943	11.5	20.8	▲ 7.1	▲ 2.7	10.1	▲ 12.3	▲ 6.4	▲ 5.4	11.2	▲ 10.3
23年	1月	▲ 35,064	▲ 17,870	3.5	17.6	▲ 10.9	▲ 3.4	▲ 4.3	▲ 15.3	▲ 2.3	▲ 10.5	▲ 6.6	▲ 3.1
	2月	▲ 9,199	▲ 12,148	6.5	8.5	▲ 7.9	▲ 1.2	1.4	▲ 12.8	▲ 7.8	▲ 6.3	0.1	▲ 8.7
	3月	▲ 7,551	▲ 12,135	4.3	7.3	▲ 8.2	▲ 9.2	▲ 12.6	▲ 10.7	▲ 2.5	▲ 3.1	▲ 3.6	▲ 0.7
	4月	▲ 4,324	▲ 10,172	2.6	▲ 2.3	▲ 6.3	▲ 5.6	▲ 2.4	▲ 12.9	▲ 0.3	▲ 7.6	▲ 3.6	4.3

(出所) 財務省「貿易統計」、前年比(%)

○輸入金額は前年比マイナスに転じる

財務省より発表された23年4月の貿易統計では、輸出金額が前年比+2.6%、輸入金額が同▲2.3%、貿易収支は▲4,324億円の赤字(事前予想: ▲6,000億円の赤字)となった。資源価格の落ち着きと非常に速い上昇ペースだった昨年の裏が出ることで輸入物価は急速に鈍化しており、それに伴い輸入金額も21年1月以来の前年比マイナスに転じた。輸出金額も海外経済の減速感の強まりで伸び悩みが続くが、輸入金額の減少を主因として貿易赤字は昨年同時期から縮小となった。貿易赤字が前年同時期に比べて改善するのは21年7月ぶりである。季節調整値で見ると、輸出が前月比+2.5%、輸入が同+0.1%となり、貿易収支は▲10,172億円の赤字と前月から赤字幅縮小となった。

○実質輸出は自動車を持ち直し

物価変動の影響を除いた実質輸出(季節調整値)は前月比+1.8%となった(実質化と季節調整は第一生命経済研究所)。地域別にみると、米国向けが同+3.0%(3月: +1.6%)、欧州向けが同+11.3%(3月: ▲4.0%)、アジア向けが同▲0.8%(3月: +0.1%)、うち中国向けが同+0.6%(3月: ▲0.4%)となった。

主力である自動車を含む輸送用機器にこのところ持ち直しの動きがみられ、実質輸出全体を下支えする格好だ。輸送用機器は22年夏ごろから停滞状況が続いていたが、部品の供給不足が緩和されたことで今年2月に前月比+2.5%とプラスに転じると、3月同+4.7%、4月同+3.8%と早いペースで回

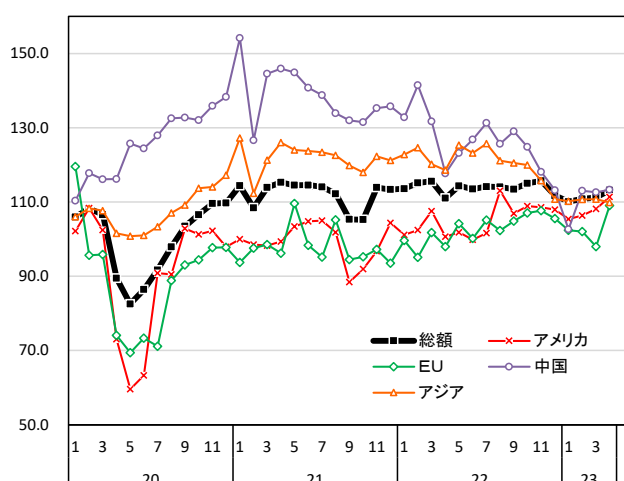
復が続いている。こうした自動車輸出の持ち直しに支えられる形で、特に自動車輸出のシェアの大きい米国向けも2月以降前月比増加が続いており、想定よりも底堅い動きが続いている。もっとも、米国向けに関しては、一般機械や電気機器といったそのほかの機械輸出に関しては鈍い状態が続いており、今後も金融引き締め政策の影響で景気減速が見込まれる中、順調な回復は期待できないだろう。

その一方、中国向けについては均せば持ち直しの傾向にあり、輸送用機器や一般機械の増加が続いた。22年の実質輸出は中国向けの低迷が続いていたことが最大の下押し要因だったため、中国向け輸出の持ち直しの兆しは好材料といえるだろう。

○先行きも高水準の赤字が続く

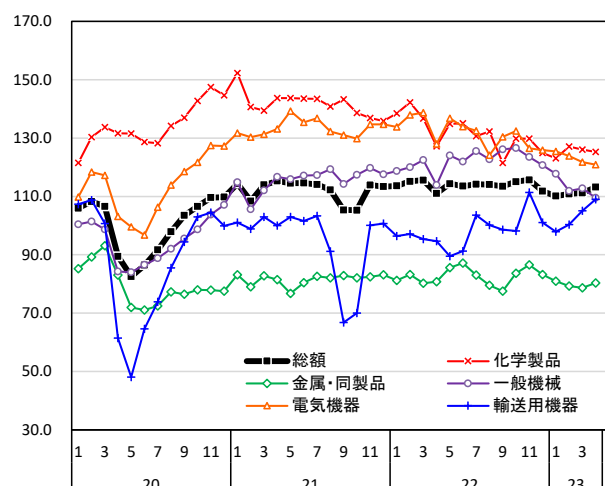
足元では資源価格の下落による輸入金額の減少により、貿易赤字は縮小傾向にある。もっとも、足元の原油価格（ドバイ）は80ドル台付近で横ばいでの推移となっており、夏場にかけて輸入金額も下げ止まる可能性が高そうだ。輸出に関しても、ゼロコロナ政策からの転換と感染動向の落ち着きで景気が上向き始めている中国向けは持ち直しが期待できる一方で、金融引き締めの影響でこの先も景気減速が見込まれる米国向け、欧州向けが落ち込むことで、停滞感の強い状態が続くと見込む。この結果、貿易収支（季節調整値）は今後も高水準の赤字が続くと予想する。

地域別実質輸出(季節調整値)の推移



(出所) 財務省 ※実質化および季節調整は第一生命経済研究所

財別実質輸出(季節調整値)の推移



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。